

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第64号 発行日2009年5月29日

Contents

第8回総会開く。熊本城の「昭君之間」	1
総会記念講演（北畑氏、須田氏）	2
霞が関情報（登誠一郎氏）	3
観光人国記（熊本市長、丸小ホテル女将）	4
観光立国セミナー報告	5
立教支部報告、ユビキタスと人流の本	6
世界遺産（プラハ）。アメリカこぼれ話	7
城下町（熊本城）。SPOT（大丸有）	8
2000万人を迎えるには。COLUMN	9
お得な情報（ネパール料理）、道の駅	10
インフルエンザと観光。イタリア通信	11
梅雨入り、梅雨明け。会員名簿	12



熊本城築城400年に合わせて復元された「本丸御殿」は、熊本観光の新しい魅力となっている。釘を使わない木造の本格建築で、中国の美女・王昭君を描いた障壁画がある「昭君之間」（写真）は「将軍の間」の隠語との説も。このほか、天守閣につながる地下道「闇り（くらがり）通路」も一見の価値がある。

この本丸御殿の太い松の梁組みを見ながら食する「本丸御膳」（3000円）は大人気で、女性群が“攻め寄せて”いる。

平成21年度予算・事業計画を承認

北畑・前経産次官らが記念講演

JN協会第8回通常総会開く

JAPAN NOW観光情報協会の第8回通常総会が5月26日、東京のプレスセンターで開かれ、20年度決算の承認、21年度予算・事業計画を決めた。



冒頭に挨拶した松尾道彦 JN協会理事長は「JN協会は創立10年目に入る。この間、健全財政を貫き、黒字決算を続けることができた。本日も全国から駆けつけた会員もおられ、みなさんのおかげです」と感謝の言葉を述べた。

20年度決算は右表の通り。21年度は、会費5,900千円、事業1,740千円の収入を見込み、支出7,600千円で、わずかだが黒字とする計画。現段階では寄付金は予算計上していない。

事業は、①会員の増強 ②観光立国セミナーの継続 ③フォーラム・講演会は、7月13日に横浜開港150周年に合わせて開くのをはじめ、石川県や北海道・札幌で開催する予定 ④6月末に、開港直後の「富士山・静岡空港」の見学会を予定——など。

総会終了後、記念講演会に移り、経済産業省の前の事務次官・北畑隆生氏が「世界同時不況は怖くない」との題で講演、JR東海相談役の須田寛氏が「首都圏の都市観光の魅力」のテーマで語った。（2面）

講演会終了後の立食の懇談会は、JN協会の前理事長の丹羽晟氏の乾杯の音頭でスタートした。

総会では、会員の大塚ババレジから飲料水が提供され、須田氏からは全員に著書の「新産業観光」が無料で配布された。

JN協会20年度決算（単位：千円）

収入の部		支出の部	
会費（個人）	758	講演会	2,864
会費（団体）	4,549	研究会	808
事業	1,552	JN紙発行費	622
寄付	7,054	通信費	775
雑収入	18	賃借料	1,600
		交通費	1,925
		その他	1,014
前期繰越金	4,843	次期繰越金	9,166
合計	18,774	合計	18,774

日本経済の回復は間もない 自動車に続く産業を育てよう

北畑隆生氏（経済産業省の前事務次官）

日本経済を取り巻く環境に、3つの問題がある。リーマン破綻に端を発した世界的金融危機であり、それが招いた世界同時不況である。私がそれ以上に注目しているのは、人口減少時代の中で日本がいかに経済成長を続けるか、である。



金融危機といっても、金融機関本業の貸付で問題が起きたのではなく、サブプライムローン証券化し売りまくった“証券型金融”が破綻したのが実態であって、欧米の金融機関に比べて日本の銀行のキズは浅かったと思う。今回、アメリカの金融機関が270兆円、欧州が120兆円の損害を受けているのに対して、日本では15兆円の損と、軽微といえよう。

100年に一度の世界不況というが、日本の場合は第二次大戦、2度の石油危機を経験しており、その時に比べれば「（サブプライム問題で）日本経済がひっくり返るような」論評や報道は行き過ぎだと考えている。むしろ、あのショックで石油や石炭、鉄鉱石の価格が下がり、大豆やトウモロコシなども安定してきたことで「日本経済はむしろ救われた」と私はみている。

これまでの景気循環をみると、景気後退の期間が最も長かったのは第二次石油危機のときの36カ月、戦後13回の景気循環があったが、後退期の平均は17カ月である。ここから見て、今回の景気後退が2007年10月に始まっているので、最長でも2010年秋には底を打つとみていいだろう。

世界経済全体でみても、世界の貿易をリードしてきたような中国の動きが注目される。中国政府は経済成長8%を死守する構えだし、上海万博へ向けて公共投資はじめ様々な対策を打ちつけている。

そして3年後には、巨大な経済力を持つアメリカが出てくる。自動車や住宅産業のキズは深いが、もともとアメリカが強い農業、航空機産業、情報産業など、まだまだ力を残しているからだ。

消費大国も復活するだろう。もともと人間というものは、3年間もモノを買わないでおられない生き物。いわんや消費好きなアメリカ人である。中国が世界の経済を活気づかせているうちに、アメリカが追いつける形が見えている。そうなると、外需依存型の日本経済の立ち直りは早いというのが、私の判断だ。

加えて日本では、トヨタをはじめとして早めの不況対策を実施している。在庫を減らし、人員も削減し、早くも正常な生産へ戻る動きも出ている。「あのトヨタが」と心理的な委縮をもたらしたことは否定できないが、逆に復活も早いはずである。

こうみえてくると、「日本経済沈没論は杞憂で、バラ色と言うのか、貴方は」と反論されるかもしれない。ただ、最初に言ったように“人口減”下で経済成長を続けることが、もっとも難しく重要な課題だと考えている。アメリカも人口は増えているし、有力な先進国の中では、唯一日本のみが人口の壁に直面するからだ。

その打開策について私が考えていることは、自動車や家電に続く先端産業、しかも省力・知識集約型の産業を一刻も早く育て上げることである。また、中国を先頭に再び前進を開始するはずのアジア諸国との結びつき強化である。アジアでの生産拠点を持ち、巨大な消費市場を前にしている日本は、アジアとともに歩まなければ、将来はない。

もう一つ提言したいことは、観光振興である。中国・アジアには、日本人と同じ程度の所得を持つ人が急速に増えている。そんな人たちのなかには「富士山があって緑が豊かで、楽しく買い物できて、安全な日本に旅行したい、長期滞在したい」と言っている人が多くいる。こうした人たちを招き入れることを、ぜひ一緒に考えようではありませんか。



通常総会の会場（09年5月、プレスセンター）

首都圏・東京は観光資源の宝庫

須田 寛・JR東海相談役

JN協会の副理事長でもある須田氏は、産業観光論の第一人者であり、著作も多い。その須田氏は、首都圏は産業観光を含めた新しい観光の魅力に満ちている、と指摘する。

といっても、神社・仏閣や公園頼りの従来型の観光だけではダメで、ストーリーとネットワークで再構築した観光都市にしなければならぬ、という。

たとえば、東京の住宅地は西南方向から時計回りに広がっていき、池袋、新宿、渋谷といった繁華街はそれぞれ違う顔、特色を持っている。こうした話題（ストーリー）を、ネットワークで結び情報発信をしていく。夜空を仰ぐと、星座がみえ、それぞれに“お話”が付いている。東京の街を星座と見立てて観光客の心をひきつけるストーリーを考えよう。そして、東京人が、おもてなしの心で観光客を迎えること、それが大切だと思う。そのためには、“交流の広場”的な場所、施設を設け、いつでも誰かが参加しているような状況を作っておくことを提案したい。東京は世界最大の観光都市になるのだ、と。

東京 霞が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

コンベンションは不況でも減らず

登誠一郎・日本政府観光局理事

「コンベンション担当ということで、100年に一度の経済危機とかでコンベンションは減っているのではありませんか。」

そんなことはありません。07年までしか統計がありませんが、前年比で3割増えて450件です。このうち、東京が半分で医学系の学会が多いです。

08年も増えていると思います。世界では全体で1万件ですので5%を占めています。米国が一番多く1100件、次いでフランス、ドイツ、シンガポールという順で日本は5位です。外国人の観光客の日本への数字は世界で27位であり、それに比べると健闘しています。シンガポールが急激に伸びているのが目立っています。同じアジアでありうかうかしていません。

「具体的に誘致活動はどのようにしていますか？」

観光立国宣言をしたことでもあり国をあげて増やすように努力をしています。各学会と開催地の自治体と各地にあるコンベンション協会がスクラムを組んで誘致活動をしています。決定権のあるキーパーソンに日本に来てもらって良いところを見てもらいます。候補地についてのPRは海外にある政府観光局の出先も手伝います。学会などの誘致をすると1泊で平均して72,000円使います。普通を観光では1泊で1万円が良いところです。3泊か4泊しますから経済効果は大きいです。

「15年前にできたコンベンション法は役立っていますか？」

地方の活性化が目的でできた法律であり、東京都は対象から外されています。東京で1泊して、全国を1万円で旅行できる切符があるので便利です。ただし、この切符では新幹線の「のぞみ」が使えないという不満が出ています。JR東海に頼んでいるのですが、営利的に難しいということです。

「2010年に1000万人の外国人観光客を招くという目標は世界的な経済不況の影響で難しくなってきましたね。」

この目標は小泉内閣でたてたものですが、国家目標にもなっており、実現しないとまずいです。麻生首相も09年度の今回の予算の補正で観光対策の金を入れました。珍しいことです。日本にいる200万人の外国人の人に海外にいる親類縁者に日本に来てもらうように手紙を出しています。ビジネス客が減っ



ているので企業にはできるだけ日本で会議をするようにお願いをしています。09年は08年と同じに835万人の外国人観光客が訪問するようにしないと目標達成は難しくなります。中国の個人の観光客へのビザを7月から出すようにしました。この効果が出ればよいのですが。

(聞き手は経済ジャーナリストの阿部和義)

【プロフィール】登 誠一郎 (のぼる・せいいちろう)

兵庫県出身。1965年3月に東大法学部卒。4月外務省に入省。アジア局南東アジア第一課長、官房総務課長、ロサンゼルス日本国総領事などを経て96年7月に中近東アフリカ局長。軍縮会議特命大使、経済協力開発機構特命大使。05年7月から日本政府観光局(前国際観光振興機構)理事。67歳。

幼い子供と旅をしたいが9割

観光庁が0から2歳の子供もいる親を対象にアンケート調査をしたところ、「幼い子供と旅をしたいという親は92%」という結果が出た。親たちは宿を選ぶ時にベビーベットの貸し出しや赤ちゃんへのサービスをしていることを条件にしていることがわかった。さらに62%の親は混雑する休日を避け、平日に宿を利用していた。こうした結果を踏まえて観光庁は「子供向けサービス充実で親子連れ利用が増えて、平日の空き部屋の活用も可能になる」とホテルや旅館に呼び掛けている。

訪日観光客の減少続く

政府観光局が4月24日に発表した09年3月の訪日外国人数(推定値)は、前年同期の22.2%減の56万8900人だった。8カ月間連続の減少である。

世界的な景気の後退に加えて成田空港で事故による欠航便が相次いだことも響いた。国別では前年比で42.2%も減った韓国や21.5%の台湾、21.1%の米国など軒並み減少した。主要国で増えたのは11.3%増の10万1100人の中国だけ。富裕層の旅行意欲が旺盛なうえに、桜をテーマにした宣伝が寄与した。

日航チャーター便100便増か

09年4月7日の読売新聞によると日本航空は6日に国際線チャーター便を増便する方針を固めた。08年度の702便から09年度は800便強に増やし、売上は約2割増の100億円超を目指す。しかし、5月に入って新型インフルエンザの発生があり、航空便の利用者の数が減っているために、この増便も実現するかどうかは今後の状況いかんである。

丸山副理事長がフィンランド大使に就任

JN協会の丸山博・副理事長は、フィンランド兼エストニア大使に就任した。同氏は東大卒業、運輸省(現国土交通省)に入り、広報室長、鉄道局長などを経て国土交通審議官を歴任した。これに伴い丸山氏はJN協会の副理事長を辞任した。

観・光・人・国・記

九州新幹線鹿児島ルート全開業に期待！
政令都市目指し環境を整える熊本市

幸山 政史（こうやま・せいし）市長
 済々黌高から九大経済へ、1989年卒。日本債券信用銀行（現あおぞら銀行）へ入るが94年に退行。翌年熊本県議会議員当選、2期務めた後、2002年11月に熊本市長当選、現在2期目。43歳。

加藤清正公が造った熊本城を中心とする熊本市は国の出先機関が集中する、九州のヘソだった。しかし経済の高度成長、山陽新幹線の博多延伸で、いまや福岡市に、その座を譲った格好になっている。九州新幹線鹿児島ルートは、すでに鹿児島―八代間で開通、2011年3月には鹿児島―博多間がつながる。

幸山市長は、当然のことながら九州新幹線に大きな期待を寄せている。「いま熊本市の人口は68万人で政令指定都市目前です。ちょうど新幹線開業に合わせて実現できるよう準備を進めています」「昨年は熊本市基本構想～湧々（わくわく）都市くまもと～を策定しましたが、その精神は『豊かな地下水と緑を活かした活力と魅力に溢れる、まちづくり』です。日本一住みよい街を目指しています。住民が住みよい街は、県外から訪れる人たちにも心地よい場所となります。それは交流人口つまり観光客を増やすことにもつながるのです」。

「観光といえば、熊本城築城400年を機に2008年に完成した『本丸御殿』がいま、大きな人気になっています。明治10年の西南戦争の際に起きた火災で焼失したのですが、当時の写真や絵図面をもとに復元した木造建築で、必見ものです。昨年度、熊本城に220万人においでいただきましたが、これは沖縄の首里城を抜いて“お城入場者”日本一でした」。

熊本市には、もう一つ誇りにできるものがある。上通、下通のアーケード街だ。西日本では最大級のアーケードということだが、全国各都市を歩き回り「アーケード街＝シャッター通り」のような実情を見てきた筆者には、人通りの多さ、板敷きの路面と相まって、新鮮な驚きだった。「国から“中心市街地活性化計画”の認定を受け、熊本城を取り囲むように4つのゾーンの整備に取り組みました。郊外大型店や福岡へ出かける人たちを少しでも引きとめようという狙いです。お城効果と相まって、中心市街地に賑わいが出ているようです」とか。

新幹線効果と言われるが、そこには大きな期待がある反面、小さな不安がある。不安とは、南九州の人たちや観光客が熊本を素通りして福岡へ向かう恐れのこと。市長は言う。「新幹線鹿児島ルート全線

開業を前に、福岡、鹿児島、熊本の3都市交流連携協定を結びました。連携プレーで国内からの来訪者を増やすことは勿論、いまは円高で減ってはいますが、韓国や中国などアジアからの観光客を増やす狙いです。その中で熊本市としては、今年度中長期的視野に立った観光振興の計画作りに着手します」。

九州新幹線鹿児島ルート開業を前に、幸山市長率いる熊本市は、動きを活発化させている。

得意の日本舞踊で宿泊客をもてなす
女将を率いる『丸小ホテル』の玲子さん

熊本市内の繁華街にある『丸小（まるこ）ホテル』の女将、小山玲子（おやま・れいこ）さんは、花柳紫寿玲（しずれい）という名を持つ日本舞踊の名手。

福岡市で育ち、高校時代に早くも花柳流日舞の名取になっていた。踊り一筋の日々で色恋話はなし、とか。ご主人の小山栄一郎さんとは見合結婚だったそう。



『丸小ホテル』の創業は明治21年（1888年）という老舗。玲子女将が嫁いだころは和風旅館で、松の間は欄間もフスマ等々松の模様で統一、梅の間でもといったような凝った雰囲気だった。平成6年に、今の丸小ホテルに建て直したという。栄一郎氏が熊本市観光旅館ホテル協同組合理事長、玲子さんが『肥後つばき会』の会長。夫婦で、熊本の観光を支えているのだ。

料理は、地産地消を旨として、辛子レンコン、馬刺、一文字くるくるから始まり、喜んでもらっているという。また、お湯は阿蘇火山帯から20年かけて湧き出る熊本の地下水を使い、超音波ブクブク温泉と名付けて、町中で温泉気分を味わえる。

また、この宿の売りの一つが150～200人収容できる大広間。市内には、これだけの人数が入れる畳の宴会場が少ないので、大人数の宴会とか祝いの席、同窓会、法事などに使われるという。そして、ここでの名物が玲子女将の日本舞踊である。「連休は個人のお客さんでいっぱいでしたので、踊りはお見せしませんでした」と玲子女将。背筋はすっきり元気いっぱい、日舞の効用なのだろうか。

熊本の観光振興について聞くと「ようこそ熊本、観光立県県民会議の委員もしていますので、県や市が行う行事に参加しますし、おてもやん祭りでもお手伝いします」と仰る。同行した長宗我部氏が、よさこい祭りや阿波踊りの動員力を例にあげて『おてもやん』の一層の大衆化、全国化を提案すると、熱心にメモを取っていた姿が印象的だった。

（市長インタビューとも、加納・長宗我部）

『国際観光旅館丸小ホテル』

860-0845 熊本市上通町11-10

電話 096-353-1241

観光立国推進に“三重苦”の壁？ 新型インフル、不況、円高が・・・

2010年、外国人観光客1000万人に一政府が掲げている観光立国の目標実現に、大きな問題が生じている。昨年秋発足した観光庁にとっても、頭が痛いところである。

その第一が、アメリカのサブプライムローンの破たんから世界に波及した深刻な不況であり、同時に進行した円高である。その矢先、今年になって豚インフルエンザ（新型インフル）が追い打ちをかけて来た。2008年夏ごろまでは「2010年の1000万人は軽く実現できそう」と、ほとんどの観光関係者が見ていた。ところが、秋以降日本を訪れる外国からの観光客は2桁の大幅な減少。なかでも、大きなウエイトを占めていた韓国からの来日者が、円高ウォン安の影響で激減したことが痛い。

円高は、日本から出かける人にとっては安く海外旅行ができることなので、インバウンド（日本への入り込み）は落ち込んでも、アウトバウンド（日本から出かける人）は増えることが理論的には期待できたはず。ところが、日本の経済自体が世界不況の影響を受け大きく落ち込んでしまい、気分的に旅行に出かける気にならない状況を招いていた。そこへ今年になって新型インフルエンザの世界的な流行という事件が発生した。しかも、比較的安全と思われていた日本の患者が、世界第4の数という思ってもみなかった事態にまで至る。「ウォン安で買い物旅行が」と韓国に押し掛けていた日本の女性軍も、韓国当局が入国検査を厳しくするなど、出足を止められてしまう。踏んだり蹴ったり、の状態だ。

新型インフルの影響は、まだまだこれから大きく出そう。2002年から03年にかけて中国で発生したSARS（新型肺炎）の悪夢を思い出させる。この時は、2000年に1782万人と過去最高を記録した日本人海外旅行者が、2003年には1330万人へと大きく落ち込んだ。インバウンドは、SARS騒ぎが落ち着いた2003年、ビジット・ジャパン・キャンペーンのスタートと相まって、急速に増え08年には835万人に達している。それが「1000万人は軽く達成」という楽観論につながっていたのである。

このほど発表された世界観光機関（UNWTO）の予測では、2009年の世界の旅行者は前年比で2%くらい減るといふ。順調に伸びてきていたが、6年ぶりの減少ということになる。日本国内でも、修学旅行の中止やスポーツ大会の自粛など、国内旅行者が減り、海外渡航者も減少する、海外からの観光客も落ち込む、まさに観光関係者にとっては予想しなかった事態となりつつある。新しくスタートした観光庁にとっても出鼻を挫かれそうな状況。まずは早期のインフル終息を願いたいものである。（加納）

「観光立国セミナー報告書V」を刊行

JN協会監事 前 隆

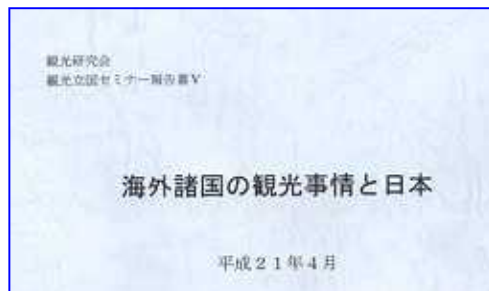
JN協会では、活動の一環として毎月1回、観光関係の識者を招いて「観光立国セミナー」を海事センタービル（千代田区麹町）で実施していますが、平成21年5月現在で42回を数えるに至っています。

この度、本セミナーの講演内容を取りまとめた第5回目の報告書を作成しました。

去年はテーマとしては、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ミシュラン、格安航空会社などのホットな話題に加えて、キューバ、ドイツ、英国、スイス、アメリカなどの海外観光事情に関するものが多く取り上げられましたので、「海外諸国の観光事情と日本」と題してまとめました。

収録内容は下記の通りです。セミナー参加者には配布済みですが、必要な方は事務局迄どうぞ。

1. 格安航空会社（LCC）の現状（08.11.19）
筑波学院大学教授・JN協会副理事長
大島 慎子氏
2. シュラン実用ガイド「ジャポン」について（08.10.10）
元JTB取締役欧州支配人 唐津 康夫氏
3. キューバ3週間3,000kmの旅（08.8.8）
JN協会理事 杉 行夫氏
4. 観光の国ドイツ（08.7.11）
元ドイツ政府観光局 坂田 史男氏
5. 箱根を中心とした「自然との共生」への取り組み（08.4.11）
小田急電鉄㈱
法務・環境統括室 国安 俊夫氏
6. 英国人を日本に来ていただくためには（08.6.27）
元英国政府観光庁 長谷川 洋子氏
7. グリーン・ツーリズムから見た観光立国（08.5.12）
（財）都市農山漁村交流活性化機構
専務理事 斎藤 章一氏
8. スイス連邦の観光政策の推移と今後の展望（08.2.12）
元スイス政府観光局 鈴木 光子氏
9. アメリカ合衆国における観光政策の推移と今後の展望（07.12.11）
全米旅行産業協会 日本代表 井上嘉世子氏
10. スイスの鉄道サービス（07.10.9）
鉄道研究家 戸田佳男氏





The report of Rikkyo activities.

山手線周遊ツアー

Nuggets Of Hospitality 朝日 麻織

5月17日、私たちは「山手線周遊ツアー」を企画



しました。ツアー内容は、巣鴨のとげぬき地蔵からスタートし、東京駅(皇居でサイクリング)→原宿(代々木公園でタイフェスティバルに参加)→新宿(都庁の展望台見学)→新大久保(コリアンタウンの料理屋で夕食)の順でし

た。時間としては、13時から20時半までというとても長いツアーでしたが、その分充実したものになったと自負しています。

しかし、今回のツアーは企画するうえで様々な苦労がありました。ひとつには、このツアーは目的地が隔たって複数あり、それらの間の移動時間や交通費を考慮して日程を組み立てなければならなかったことです。今まで企画したツアーはたいてい一駅を拠点としていたので、今回のような場合は細かく計画を立てる上で少し苦労しました。

また、下見に行き初めてわかること、そしてその上での内容の変更もありました。例えば、事前に立てた計画ではゲストをとっても歩かせるツアーになっていました。しかも、ほとんど野外での行動を予定していたので休む時間は移動の電車内しかないということにも気付きました。これではいくら充実したツアー内容でも疲れてしまって十分に楽しんでもらえないと考え、最初の計画に入っていた皇居散策をサイクリングに変更することで対応しました。

そして私たちを一番悩まされたのが各目的地の時間配分でした。ツアー当日に開催されるタイフェスティバルは事前に集めた情報だけでははっきりとした予定が立てられませんでした。行われる場所しか事前には把握できず、どのくらい時間をとれば十分なのかという実質的な事は仮定するしかありませんでした。その他の場所も下見を行った時がゴールデンウィーク中だったためにとても混雑していて性格な時間をはかることができません。ツアーを実施するにあたって時間配分は一番の心配事でした。

このように企画段階で様々な苦労がありましたが、当日は無事にほぼ計画通りにツアーを実施することができました。今回のツアーには、ゲストは韓国人4人(女性2人、男性2人)が参加してくれました。この日はあいにく雨が少し降っていたためにサイクリングは中止せざるを得なかったのですが、ゲ

ストの方々からは、タイフェスティバルでは「タイの食だけでなく、文化の面でも興味がそそられ満喫できた」や「巣鴨は普段自分からは絶対に下車する駅ではないので新しい場所を知ることができた」、「ひとつの路線を周遊するなんていつもと違う経験ができておもしろかった」などという声を聞くことができました。また、夕食の韓国料理屋(焼肉肉食べ放題)では韓国人が経営している店だけあって、ゲストの方々にも満足してもらうことができたようでした。お肉を焼くときにはゲストの方が自ら全てやってくださり、韓国人の食べ方や「サンチュは食べ過ぎると良くない」などといった豆知識も私たちに教えてくれたりして、みんなで話も盛り上がりながら楽しく夕食をとることができました。そして私たちホスト側の対応に関して言えば、今回もツアー日程と各場所について自分たちで調べた限りでの説明、解説を載せたしおりはゲストの方々にも好評で、私たちも作った甲斐がありました。今回のツアーを通して、私たちが日本、日本人についてゲストに教えるだけでなくゲストの方々から私たちは彼らの国、文化に関して教えてもらうなどお互いにとって素晴らしい交流をもつことができたのではないかと思います。

寺前 JN 協会理事が新著を発行

ユビキタス時代の人流～融合する観光と公共交通～

高崎経済大学観光政策学科教授の寺前秀一 JN 協会理事が「ユビキタス時代の人流～融合する観光と公共交通～」と題する著作を6月15日、(株)システムオリジンから発行する。書店では発売せず、インターネット「AMAZON」で購入できる。2100円。

この本は、寺前教授が地域政策学会が発行する「地域政策研究」に発表した研究論文である9巻2・3合併号(鉄道・軌道法体系の再構築に関する考察)10巻2号(もう一つの憲法論議—旧国有鉄道運賃法が投げかけたもの—)11巻1号(地域観光政策に関する考察)11巻2号(観光情報論序説～進化人流論の試み～)11巻4号(国土政策と人流・観光～全総神話の発生と消滅～)をベースに大幅に加筆訂正して、ユビキタス交通社会を展望した将来の人流・観光制度を考察する形で体系化するものである。

主な内容は、

- 1 ユビキタス交通社会の国家戦略
- 2 政策過多と地方分権
- 3 国境と人流
- 4 鉄道イノベーション
- 5 リゾートとホテル・旅館
- 6 易经と人流
- 7 脳と観光ロボット
- 8 総合生活移動産業



「世界遺産物語」…… ⑫

格調高いプラハの文化とエネルギー

近藤 節夫

これほど世間から羨望の眼で見られる都市はそうあるものではない。曰く「百塔の街」「黄金の町」「石の町」「北のローマ」「魅惑のプラハ」「中世の宝石箱」等々この呼称を見ればどれだけ魅力のある都市であるかがお分かりいただけるであろう。

プラハには中世ヨーロッパ史の礎を築いた華やかな栄光が秘められている。14世紀には神聖ローマ帝国の首都となり、ローマやコンスタンチノーブルと並んで中世ヨーロッパ最大の都であった。市内にはモルダウ川（ヴルタヴァ川）が貫流し、現存するヨーロッパ最古の石橋・カレル橋から遠望するプラハ城と中世の重厚な町並みは落ち着いた佇まいを醸し出し、今では世界中の観光客を魅了し、プラハの人びとの誇りともなっている。



カレル橋（チェコ観光局）

30年前の冬初めてプラハを訪れた時、街には深々と雪が降っていた。人通りの少なくなった薄暗い中で頭巾を被り連れ立って歩く老婆と子どもの姿が、ふとアンデルセンの童話「マッチ売りの少女」の怪しい民話の世界を思い起こさせてくれた。

石畳の狭い道路を音を軋ませながら走る路面電車、プラハ城の一角で今でも灯されるガス灯、由緒ある石造りの建物群が懐かしくもノスタルジアを呼び覚ましてくれる。どこから見ても絵になる世界遺産・プラハ歴史地区の街頭風景である。

チェコの人びとの強い自由への渴望から「プラハの春」の勃興とソ連軍による鎮圧が世界中の耳目を集めた中心は、1968年8月のバーツラフ広場だった。社会主義体制の崩壊はまさにこの時からひたひたと押し寄せていたのである。その余波をかぶり1988年8月の滞在中に「プラハの春」20周年記念のデモに巻き込まれてしまった。バーツラフ広場前の滞在中のホテルから禁足令を申し渡され、銃声とシュプレヒコールが交錯する騒音に、いらいらしながら夜通し外を眺めていたことが懐かしく思い出されてくる。

1989年ビロード革命を経て自由を取り戻したプラハ市民は、権力に抵抗する信念と行動を力強く世界に示した。その一方で市民の文化と芸術に対する関心と理解も並々ならぬものがある。街を歩いていると目につく伝統のボヘミアン・ガラスと、いずこからともなく流れてくるスメタナの名曲「モルダウ」は人びとの文化への高い関心を思わせてくれる。モーツアルトの「ドン・ジョバンニ」が初演されたのも市内のエステート劇場であったし、初演の

のプラハでは大成功を収めモーツアルトを感激させたと言われている。私には、文化の香高いプラハの街と、他方で激しい動乱の源流となった情熱的なプラハは、そこにいてだけで心を豊かにし、勇気とエネルギーを与えてくれる「生きた歴史を教えてくれる世界遺産」のように思える。

アメリカ・こぼれ話 ②

「ダコタ・ハウス」 ニューヨーク

JN協会理事 北村 嵩



マンハッタンの中央に位置するセントラルパークの西側、72丁目付近に公園に沿って建つ高級コンドミニアムで、マンハッタンで2番目に古いアパートメント形式の住宅である。この建物の玄関前で住人の一人であったジョン・レノンが射殺されたことで有名である。

その他、この重厚な外観の建物を舞台に使った映画「ローズマリーの赤ちゃん」のロケにも利用された。音楽家レナード・バーンスタイン、俳優ロレン・バコールなどの著名人が居住したことがあり、今でもオノヨーコをはじめ沢山の有名人が住んでいる由緒ある建物である。1880年に着工し、完成したのは1884年で、シンガーミシンの社長エドワード・クラーク（Edward Clerk）が建築家ヘンリー・J ハーディンベルグに依頼して建てたもので、20年後に同じコンビがプラザホテルの設計も担当した。建設された当時のマンハッタンは南から徐々に北に向かって発展しつつあり、5番街の50丁目あたりのロックフェラーセンターはまだコロンビア大学とその農場であり、セントラルパークのこの辺りはまだほとんど開発されておらず、当時の中西部の僻地で、まだ準州であったダコタのような寂しいところに立派な建物が出来たのでダコタハウスと呼ばれたと言われている。

1886年アメリカ建国100周年を祝ってフランスから送られた自由の女神像はまだ建設されていないこの時代に、冷暖房、電気・水道が完備し、住人用のエレベーターだけでなく、キッチン専用の料理、食材を運ぶ専用のエレベーターも設置され、パーティーのケイタリングにも便利なのでニューヨークの上流社会で評判となり、申し込みが殺到したといわれている。

「観光立国と私の提言」

休載のお知らせ

9面に掲載していた「観光立国と私の提言」は、筆者の都合により休載させていただきます。次号以降、再開する方向で調整いたしますので、ご了解ください。

城下町と観光 ⑨

熊本城（熊本市）

加藤清正が築いた名城

観光客が200万人を超す

JN協会参与 長宗我部 友親

熊本城内には古木が意外に多く、木々の緑が安らぎを与えてくれる。5月には、梅檀の大きな木が満開で、紫の花が咲き乱れていて、奥ゆかしい香りを放っていた。



新しく完成した本丸御殿（写真手前）の前には大銀杏が、みずみずしい緑の葉をつけて繁っていた。

銀杏は築城者の加藤清正が、城内に籠城の際の食料にと、植えさせたもので、このために熊本城は「銀杏城」の異名も持っている。しかし、西郷軍に攻められた明治10年の西南の役の際に、火災にあって、天守閣などとともに銀杏も焼け落ちたが、一本だけ残ったのがこの銀杏だそうだ。

熊本城に、内堀を見ながら入っていくと、「武者返し」といわれる急勾配に組まれた石垣が幾重にも続いて聳え立っている。その向こうはるかに、天守閣が見えるという格好だ。

NEW SPOT

「大丸有」回遊

in japan

14

東京・丸の内界隈が一段と様変わりしている。三菱商事ビルなど跡地に地上34階、地下4階の「丸の内パークビルディング」が4月末に竣工し、地下1階から地上4階の商業ゾーンは9月3日に全面オープンする。その前面に、1894(明治27)年竣工の赤レンガ造り、丸の内最初のオフィスビル「三菱一号館」(1968年解体)を復元した地上3階、地下1階が同時竣工し、10年4月に三菱一号館美術館(高橋明也館長)として記念展「マネとモダン・パリ」で開館する。

大手町に目を向けると、日経ビル、経団連会館、J Aビルの高層3棟が4月初め完成し、低層部で3棟連続した大手町カンファレンスセンターに国際大会議場、レセプションホール、多数の会議スペースなどを備え、国際交流機能を充実する。さらに東京駅前の中央郵便局が建て替え論議を巻き起こしたのは耳新しいが、歴史的な建物を一部残し、その上に高

熊本城は、城造りの名手と呼ばれた加藤清正が7年の歳月をかけて、慶長12年(1607年)に完成させた。武者返しといわれる石垣の美しさは、見事なもので、石垣と天守閣の組み合わせは、日本の城の中でも有数であろう。この石にいまだに西南の役の際の、弾丸のあとが残っている。

熊本の街づくりも、この城を軸に造られていて、マンションの部屋は城が見えるか見えないかで、値段が変わってくるといわれるくらいだ。昨年の熊本城への観光客は、沖縄の首里城を抜いて200万人を超えたという。

豊臣秀吉の時代には、熊本のうち、宇土、益城、八代は小西行長が治めていたが、慶長5年(1600年)の関ヶ原の役で、小西行長は西軍につき、加藤清正は東軍につく。この結果、加藤清正は小西行長の領地も治めることとなり、その所領は54万石となった。



丸の内パークビルと復元された三菱一号館

層ビルが乗るとい再開発が多く、一号館や東京駅舎計画のように、全体像を復元保存する例は少ない。

大手町・丸の内・有楽町を合わせた地区を「大丸有」と呼び、この界隈で働く人びとが中心になったNPO法人「大丸有エリアマネジメント協会」がガイドやイベントなどで地域振興を盛り上げる。大丸有地区を結ぶ無料バス「丸の内シャトル」は大手町から日比谷まで1周約30分、年中無休で高層ビルの谷間を走り、回遊散策の足をサポートする。(写真・文 林 莊祐)

2000万人の訪日者実現に向け新たな政策を！ 効率的な「人流システム」の構築が必要

昨年10月に観光庁が発足して以降、世界経済は厳しい状況に陥り、2010年までに訪日外国人客数を1000万人とする政府目標の達成が困難になってきている。ただ、この数値は、近隣諸国の所得水準の向上を暗黙の前提にした予測値に過ぎない。同庁が打ち出した20年まで2000万人という新たな目標を実現するためには、単なる市場予測ではなく、各国の経済成長率等も織り込んだ政策目標として組み立てる必要がある。

欧州の経済対策は公共投資だけではなく、バカンス法等の休暇増加策や旅行クーポンの配布などにも取り組んでいる。我が国の高速道路料金的大幅引下げも、全国の観光地をより広域の競争にさらすことになるが、これにより観光市場が活性化すれば成功だろう。

1930年、鉄道省に設置された国際観光局は、大恐慌直後だったにもかかわらず、外貨獲得に大きな成果を挙げた。ただ、今の日本は世界有数の債権国であり、当時とは大きく状況が異なる。2007年1月に施行された観光立国推進基本法には、わが国の国際的な地位が向上したのに比べ訪日外国人客が少ないという点を改善したいという思いが投影されている。

戦後、日本人の海外旅行が増えたのは、諸外国の観光客誘致策が効を奏したというよりも、日本人の外国、外国文化への憧れが大きくかかわっていた。これを踏まえれば、アジアの先進民主主義国としての、日本の独自の文化、芸術、産業、そして社会システムへの理解が進めば、おのずと海外からの来訪者は増えるのではないか。

温泉について言えば、入浴機能だけに留まらず、日本料

理、日本酒、陶磁器、日本旅館といった総合文化として評価されれば、日本人がフランス料理、ワイン、ワイングラス、シャトーホテルに対価を払ったように、隣人は対価を支払ってくれる。そのためには日本の消費者自身が、自国の文化に対して誇りと愛着を持ち、評価できる目を持つ必要がある。観光地の質の向上が、訪日外国人客の増加につながり、それがまた日本人の、自然や文化への誇り、愛着の深まりに結びつくはずだ。

こうした質の向上とともに、運送機関や宿泊施設等の選択権や価格決定権を、国際的にも日本が握るという態勢を作っていく必要がある。そのためには、観光を含め人が移動・交流する活動を「物流」ならぬ「人流」ととらえて、人流産業を振興しなければならない。観光、宿泊、運送の体質強化を総合的に図る政策展開が必要である。

具体的には、駅・空港と観光地との間の送迎にとどまらず、自宅や出発地（国）との間の送迎までを視野に入れた「人流」を考えたい。人・モノ・カネ・文化・情報の流れにおいて、日本がアジアと世界の懸け橋となつてともに成長していくことを目指すアジア・ゲートウェイ構想や国際チャーター便の規制緩和も効果が期待できる。観光地でも乗り放題タクシーなどの地域の創意工夫が発揮できる制度が用意されなければならない。高速道路の低廉化のみならず、低コストの効率的人流システムの構築が必要である。

まずは、観光は地域の個性の発揮であるという考えを持ちたい。地域の創意工夫を生かした取組を国は尊重し、地方分権、規制緩和等により市場がうまく機能するように心がけるべきである。

(高崎経済大学教授、JN協会理事 寺前 秀一)

C O L U M N

著書回収に複雑な気分

つい最近上梓した拙著に関して珍しい事象にぶつかった。自分が書いた本になると誰でも愛着があるものだが、2月に出版記念会を催して拙著を出席者に差し上げた。裏表紙に「恵存」という文字に添えて愛用の言葉、そして署名を認めた。しばらくして知人のひとりが拙著をインターネットにより購入した。ところが、それが図らずも出版記念会の折りに出席者に差し上げた書物の内の一冊だったのである。「恵存」の文字を書き込んで手元を離れた拙著はほかにはない。知人はその拙著に自分の名前を書いてもらいたいとわざわざ持参した。代わりに新しい本と取り替え、知人の名を書いてあげたが、何か奇妙な気持ちになったのも確かだった。

近年インターネットの普及により書籍の販売ルートが拡大され、古書マーケットが拡充されたのも確かであるが、数多くの書籍が溢れる中で、一旦手元を離れた著書がこうも簡単に自分の手に戻ってくるとは実に意外だった。しかもほんの僅か2ヶ月余の間に回収されたのである。里子に出した子が歩いて親の元へ帰ってきたような複雑な気持ちと言えば、当たらずとも遠からずだろう。

有名作家でも著書が古書として店頭に並ぶと気になるものらしい。今日とは時代環境が違ふとはいえ、漱石のような大作家でも一時期自分の著書を古本屋で見つかりすると、読者に見放された何となく引け目を感じてそっと買い戻したこともあったらしい。

それにしても一旦手元を放れた大切なものが元の鞘に収まるというのは、奇跡に近い。初めて海外へ出かけた時、タイのアユタヤ市内で路線バスに乗り、下車時にうっかり財布、旅券などの貴重品が入っているバッグを座席に置き忘れるという大失態をやってしまった。幸い乗客や知り合ったタイ軍人らの温かい協力でもなくして取り戻すことができた。

もっともこれは単に自分が間抜けだっただけで、著書の回収とは話が違ふか？ (近藤)

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

ネパール料理 カンティブール

ネパールは地理的にもインド、中国、チベットに隣接しているため、食事も影響をうけている。主食は小麦粉をイースト菌を使わずに窯で焼いたナンまたはチャパティ、ヨーグルトドリンクのラッシーやカレー、中華料理チョウメンという焼きそば、チベット料理的なものはモモと呼ばれる蒸しギョウザがある。スパイスを大量に使うがあっさりしているのが特徴である。

カンティブールとは、首都カトマンズの昔の呼び方である。こじんまりした店内にはネパール音楽が流れ、ネパール出身のシェフがつくる家庭料理は、カラフルで異国情緒たっぷりである。

カレーの種類は豊富で、価格は700円から1000円以内で、アルタマカレーというジャガイモとタケノコのそれは、ネパールで最もポピュラーだそう。400円前後のナンもごまの入ったセサミン、カシューナッツとレーズンのカブリナンなど、色々楽しめる。

コース料理は、1500円からで、カレーに、おかわり自由なナン、そしてチャイがラッシーがつくので、女性ならばこれで十分な量である。ロイヤルコースだと、サラダ、スベアリブ、タンドールチキン、野菜の炒め物、デザートなど13品目もついて3500円。お米からつくられた地酒のチャンやククリラムはグラスで380円とビールより安い。

住所は渋谷区桜丘町16-VI サンライズ桜丘B1

電話は03-3770-5358

営業時間は年中無休で、ランチ11:30-15:30、ディナーは18:00-23:00。
(大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいてきた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。

今年4月に完成した2009-2010年度版は、日本全国のホテル約

100館55,000室の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちに
よって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の



編集方針です。

2009-2010年度版も、2010年に遷都1300年を迎える奈良平城京に焦点を当て、日本文化と国家の原点

温泉のある「道の駅・伊東マリンタウン」

伊豆半島の玄関口・伊東温泉の入り口、国道135号線沿いに道の駅・伊東マリンタウンがある。



ショッピング&レストラン「オーシャンバザール」海に臨む天然温泉「シーサイドスパ」、海のマリーナを見下ろすカフェがある「ポートセンター」の3つの建物からなる複合型観光施設となっている。

温泉のある「道の駅」は全国に多数あるが、伊東マリンタウンの「シーサイドスパ」は海が見える立ち寄り天然温泉。1,000円の入場料で、源泉は地下1,000mから湧き出る温泉が楽しみ、アロマバス、ドライサウナ、休憩室などがそろっている。(営業は午前10時～午後10時)、第2水曜日は休館(7,8月無休)。有料(1,050円～)ではあるが、リラクゼーションメニューとしてアロマエステ、貸切のジャグジー、本場韓国式アカスリ、厚生労働省認定の資格保持者による全身マッサージと充実の対応でドライブの疲れを癒してくれる。

また、この4月に全長43m・入浴人員70名の関東最大級の足湯「あったまりーな」がオープン。相模湾を望み、遠くは初島、手石島をはじめとした島々を眺めながら寛ぎのひと時を過ごすことができる。

午前11時～午後3時まで、料金は無料。

時間があれば、海の遊歩道「伊東マリンロード」を散策して、紺碧の海やマリーナを眺めながら心を落ち着けるのも良い。

問い合わせ：電話 0558-25-3500 (堤 るり)

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2009年7月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、ともしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2009年7月27日。締め切りは7月15日。

NPOから提案します

新型インフルエンザに泣く観光地

高崎経済大学観光政策学科教授 寺前 秀一

新型インフルエンザ報道により観光地が泣いています。観光地の風評被害を呼びかける首長さんが、今度は旅行の自粛を呼びかけています。高崎経済大学でも、高崎市からの指示に従い学生等に「自粛」を呼びかけた手前、学部長が海外での学会発表を取りやめました。筆者も中国国家観光局主催の会議に参加予定でした。自粛を求められましたが、JATAは実施する方針でしたので、観光学を教える立場からは自己責任で参加する心算でした。しかし中国側が日本でのインフルエンザ報道の影響を受け延期をしましたので、問題は表面化しませんでした。

これから梅雨に入ります。雨は山を削りますから、日本列島から山岳部は消滅するはずですが、しかし太平洋プレートとフィリピンプレートが日本列島の下に沈み込んで、絶えず持ち上げています。地震の原因は日本列島を隆起させる力でもあるわけです。地震もなく山岳侵食もないというのは贅沢な望みです。気候も地震も百年分のデータでは、25年間に一回程度の現象と百年間に一回の激しい現象の確率を識別できません。識別のためには千年分のデータが必要です。その意味でも

21紀の今年もデータ蓄積の年です。

三宅島島民は全島避難から4年間を経過しフラストレーションが高まりました。危機がなくなったので戻ってよいというのは専門家でもむずかしく、避難命令を出した村長が一番困りました。地殻異常等が観測された時は判定会に持ち込まれ地震学者が判定します。この判定会は法令組織でもなく議論も割れる可能性があります。サイエンスの領域であるから多数決というものでもないでしょう。法律上は気象庁長官が自ら判断して地震予知の報告を総理大臣に対して行い、総理は警戒宣言を発令します。この宣言により、東名高速道路、東海道新幹線等が全面ストップします。警戒宣言による実質的な経済的損失を政府は1日1700億円と試算しています。わかりやすい異常値が続く間は我慢できます。わかりづらい状態が長く続くようになると人々はいらだててきます。東海地震は何時おきてもおかしくないと考えていますから専門家は解除することに躊躇します。

従って行政責任が問われる気象庁長官もアクションを起こせませんが、警戒宣言の弾力的運用（実質解除）を求める声が噴出するでしょう。頼りに出来ない専門家に囲まれた総理はそのときになって三宅島村長の気持ちが真に理解できるのでしょうか。地震に比べれば新型インフルエンザは冷静に対応できるはずですが。

イタリア通信 その9 ～ミラノ歴史講演会～

「ミラノ歴史」連続講演会 大ヒット

世界遺産の教会が会場

ミラノのサンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会といえば、あのレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」が隣接する修道院食堂に描かれていることでも知られるミラノのルネサンス建築を代表する建築物である。この教会、閑静な場所にあり最後の晩餐の見学時間が終了した後は教会前広場も静かで落ち着いたたたずまいに戻る。ところがこのところ毎週水曜日の夜になると、大変な人だかりで長い行列ができて、道行く人も車も「何事か起こったの？」と驚くほどの光景となる。

長蛇の原因は、同教会を会場に開催される「ミラノ歴史」連続講演会を聴こうという人たちなのである。3月18日に「ミラノ建立神話」でスタートし、その後、紀元374年の「ミラノ守護聖人・聖アンブロージョ就任」、1176年の「赤髭フレドリック大王打破」から1805年の



「ナポレオンによるドゥオーモの戴冠式」といったミラノの歴史的ターニングポイントとなる日を10日間取り上げ、毎回最高のエクスパートが講演をするという企画なのだ。最終回の5月20日は「1945年4月25日」の「ミラノ解放」がテーマだ。

私自身、大半の講演会を拝聴しているが毎回、講師の話の深さと巧みさに舌を巻いた。1時間半あまりの講演の間、私語一つなく途中で席をたつ人もない。そして講演が終わると文字通り超満員の会場から「万来の拍手」が響き渡る。それにしても会場設定の見事さには魅惑される。なにしろ、講師の頭の上には1492年にブラマンテの設計により完成された大きな円蓋（クーポラ）が広がっているのだ。

聞くとところによるとこの講演会は南イタリアのバーリに本社を置く歴史書出版社の企画で、すでにローマ、フィレンツェで同様の講演会を行い大成功し、北上してミラノでもミラノ市役所や地元スポンサー企業などを巻き込み実施したとのこと。

ローマにおける古代ローマやフィレンツェのメディチ家やルネサンスなどに比べ、ミラノの歴史は華やかさに欠けるかもしれない。だからこそ自分の住む町の歴史を知ってみたい、そう思うミラネーゼたちの漠然とした興味にマッチした素晴らしい企画といえよう。

JAPANITALY.COM社 代表取締役 大島悦子

爽やかな北海道と梅雨空の本州

梅雨の中休みの青空が広がると、観光地へマイカーを走らす家族も多くなることでしょう。

この時期、北海道は爽やかな天気恵まれることが多く、札幌では第51回ライラックまつりが5月20日から24日まで市内中央区の大通り公園で開催されます。ライラックの花は白と紫の2種類があり、甘い香りを漂わせます。紫の花の花ことばは「恋愛のはじめての喜び」で、その香りにふさわしいようなことばです。この花が咲くと北国もやっと初夏に入ります。

北国の晴天とは対照的に本州は梅雨の時期です。梅雨入りと梅雨明け

梅雨入り・明けの平年値

地方	東北北部	東北南部	関東甲信	北陸	東海	近畿
梅雨入り	6月12日	6月10日	6月8日	6月10日	6月8日	6月6日
梅雨明け	7月27日	7月23日	7月20日	7月22日	7月20日	7月19日

地方	中国	四国	九州北部	九州南部	奄美	沖縄
梅雨入り	6月6日	6月4日	6月5日	5月29日	5月10日	5月8日
梅雨明け	7月20日	7月17日	7月18日	7月13日	6月28日	6月23日

の平年値を表に示しました。日本列島の南岸に停滞する前線の影響で、梅雨入りは南の地方ほど早く、例年では沖縄が5月始め、九州南部は5月末、九州北部から東北南部では6月上旬、東北北部は6月中旬と、もっとも遅い梅雨入りになります。

梅雨前線はオホーツク海にある冷涼な空気をもつ高気圧と本州の南海上にある暖湿な空気を持つ高気圧の間に発生します。活動が活発になると大雨となり、時には災害をもたらします。梅雨入りから梅雨明けの期間はだいたいひと月半くらいで、その間ははじめじめとした空模様が続きます。

これからの季節は梅雨のない北海道が羨ましいですね。
(日本気象協会・金野雅之)

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問** : 松山善三(映画監督)
理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁)
顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2009年05月29日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(株)アト・パソ、(株)アト・ルックス、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールト、岩田地崎建設(株)、(株)HKIアックス、(株)エイブ・システムズ、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ババレジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャンドウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アト・パソ(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)セイインターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーディングシステム(株)、(株)タ・イエ・コンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲研、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、ネスレコンフェッショナル(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビックウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パ・ロッキング・ジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、

地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

観光人国記取材で熊本市に行った。20年も前、当時の知事・細川護熙氏(のち首相)を訪ねて以来のこと。細川さんとは朝日新聞の同期入社。新聞記者の卵は、会社持ちで運転免許を取る仕組みになっていた。約60人が半数ずつに分かれ、細川さんが王子(東軍)の大將、私が小金井(西軍)のキャップ。どっちが安く免許取得できるか、競わされた。結果は西軍の勝ち。当時の人事課長は「第二次関ヶ原の戦いは毛利方の勝利」と講評。私が山口県出身であることを踏まえたジョークだった。それ以来、鹿児島に赴任した細川さんは、夏休みごとに2年続けて山口にいた私を訪ね、小さなアパートに泊まっていた。

今回の取材旅行は、JN協会参与の長宗我部友親氏と一緒に。彼の祖先・長宗我部盛親は関ヶ原のちの大阪の陣で徳川方に敗れたが、加藤清正に続き細川忠利にも、家臣の一部を引き取ってもらうという熊本との浅からぬ因縁があった。市内の寺には、「長宗我部」一族の墓が。不思議な縁を感じた。(加納)